

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300469		
法人名	有限会社 なかがわ苑		
事業所名	グループホームなかがわ苑		
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1		
自己評価作成日	平成25年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に対しては、おいしくご飯が食べられ、安全で元気に楽しく過ごしていただくため、小さな変化も見逃すことがないように期を付けている。言葉づかいに気を付け、利用者様の持っている能力を把握し、自分の出来ることに自信を持っていただけるように、一人ひとりの思いやその人らしさを大切に、チームで統一したケアが行えるように努めている。家族様に対しては、来訪されたときには出迎え挨拶し、利用者様の現在の様子を伝え、家族様が訪問しやすく、気軽に話ができる環境作りに努めている。家族様が、利用者様に対してどのような思いをもたれ、どのような暮らしをしていて欲しいかよくお聞きし、些細なことも相談でき家族様の要望に応じた介護ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った田園地帯に位置している。事業所は、地域との繋がりを大切に捉えており、神社の清掃等の地域活動を積極的に担っている。事業所の運営推進会議に地域の消防団員の参加を得るなどして、地域住民と協力しつつ防災対策に取り組んでいる。また、朝・夕の申し送り時には、全職員で事業所の理念を唱和しており、職員間で共通認識を図りつつ、利用者の自立支援に向けた支援に取り組んでいる。事業所は窓が大きく、明るくて清潔感のある環境となっている。玄関やホールには、季節の花や利用者の作品を展示している。利用者は、居室に馴染みの物を持ち込んでおり、家庭的な雰囲気のなかで生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	I ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し、常に目に入るよう事務所やホールに掲示している。	朝・夕の申し送り時に、全職員で事業所の理念を唱和し共有化を図っている。新人研修に事業所理念に関するプログラムを取り入れている。事務所内や玄関、ホールなどの目につきやすい場所に掲示している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の協議会に入会し、近所の神社のお祭り、清掃活動、集会にも積極的に参加している。また、近隣の方からは赤紫蘇の葉や柿をいただき、作った柚子味噌等で交流を深めている。	地域の神社清掃等に積極的に参加し、地域との繋がりの強化に取り組んでいる。日ごろから、近隣住民と挨拶を交わしている。地域の方から野菜を差し入れてもらうこともあり、日常的に交流を深めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方や家族の参加があり日々の生活、暮らしぶりの説明をするなかで認知症という病気の知識を深めていただき理解をいただいている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状や取り組みについて話し合う中でいただいた意見は、後日、職員で話し合いを持ち改善に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。地域の消防団員の参加を得ており、防災対策についてもアドバイスを得到している。参加者から出された様々な意見を参考にし、事業所のサービスの質の向上へと繋げている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令や運営について分からないことがある時は、市の担当者にお聞きし、アドバイスや的確な返答をいただき、情報交換を行う機会を作り、協力関係を築くよう努めている。	市担当者に各種法令や困難事例等の相談を行っている。また、毎月、窓口へ出向いて報告書等を手渡し、情報交換を行うなどして協力体制の構築に努めている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会等で身体拘束について学び、全職員が理解を深め、どうすれば身体拘束せずに安全が確保できるかを話し合い、拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのあり方に関する職場内研修を開催し、全職員で理解を深めている。拘束ゼロという共通認識をもって、日ごろの実践に取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内勉強会で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を高めお互いに気を付けている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用できる制度や事業について学ぶ機会を持ち、家族や関係者の意向を聞き取りながら利用者の能力に応じ活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や利用契約書の内容、個人情報保護、身体拘束、看取り等の説明を十分に行っている。誤解の生じないように注意し、理解、納得していただいた上で署名、押印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加された家族様や家族会での話し合い、アンケート、来訪時に意見や要望を気軽に相談できるような機会と雰囲気作りを努め、いただいた意見や要望を運営につなげ質の向上に努めている。	面会や会議等の機会に、家族への声かけを行うなどして、意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりを行っている。年1回、家族アンケートを実施したり、意見箱を設置したりしている。出された意見や要望等は運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場におり現状を十分に把握し申し送り時や会議で職員から出る意見や提案を尊重し、業務に反映させている。	管理者は、職員から様々な意見や提案を把握するために、朝夕の申し送り等の機会を設けている。また、管理者は、日ごろの業務のなかでも職員の声に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や研修を行っている。労働安全衛生法に則り、健康診断等で健康と安全に気を付け、職員それぞれの労働形態に配慮しモチベーションの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や能力、希望に応じ新たな資格習得や外部研修を受けるよう勧め、参加してもらい、研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と話し合う機会を持ち、お互いに分からないことは聞きやすい関係を作り、サービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に、家族の方、担当ケアマネから心身の状態や暮らしについてよく聴き、ご本人様からも希望や要望をお聞きし不安や不満要素を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後の家族様との話し合いの中で、センター方式の聞き取りを行い、家族様が抱える悩みや葛藤を理解し、要望を把握したうえで信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	是までの介護の様子や相談に至った経緯を家族様や利用者様に聴き、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを考え対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のこれまでの経験が生かされ、好きなこと得意なことを見つけ利用者様の意欲に応じ、一緒に行くことでお互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いを汲み取りながら、運営推進会議や行事に参加していただく機会を持ち、利用者様、職員と一緒に過ごす機会を作ることでコミュニケーションを図り、日々の生活状況をお便りで伝え、共に支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方にいる家族とは頻会な電話連絡で話し、家族、親戚、友人、近所の方の面会を大切にし、家族との外出、病院受診等を継続して行えるように支援している。	職員は、利用者の希望するかかりつけ医の通院を支援している。また、友人や知人へ電話をかける支援を行ったり、来訪を受け入れたりして、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が各部屋を往来したり散歩やレク等も一緒に楽しまれている。利用者様の相性や性格等を考慮し、食事の席等を工夫し、利用者様同士の関係が円滑なものとなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後もお見舞いや個別訪問するなどし、その後の生活を伺っている。また、いつでも相談できる体制があることを説明し、家族様からの問い合わせや相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと関わりを持ち言葉や表情から、どのような思いを持っているのかヒントとなるものを記録し、話し合い、希望や意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりの状態に応じた生活の支援を行っている。職員は、利用者とのコミュニケーションを密に図ったり、言葉や表情等から真意を推し測ったりして、思いや意向の把握に努めている。把握した情報は、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様がこれまで歩んできた生活をプライバシーに配慮しながら担当ケアマネージャーや各種サービス利用機関、家族様から情報を収集し、これまでの経過や馴染んできた暮らし方、生活環境、人生観、価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの行動や何気ない言動から利用者様に合った過ごし方の把握に努めている。。本人の出来る事できない事を十分把握し、現在持っている能力が維持できるような視点で支援に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動の中から、また、家族様の来苑時に思いや要望を聴き、利用者様がその人らしい生活を続けられるために職員でモニタリング、アセスメント、カンファレンスで現状を把握し、介護計画に反映させている。	利用者や家族の意見、要望等を聞いたうえで担当者会議で話しあっている。利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。また、利用者の現状に応じて、柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に時間的に利用者様の状態や介護実践を記入している。。そして、変化や気づいたことを申し送り時に話し合い情報を共有し、対応を話し合いチームでの統一したケアを行えるようにして介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の病院受診や外出の送迎など個別にあったニーズを本人の希望や家族様の要望を聞き、家族様と連携をとりながら必要な支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食、花見、近隣商店への買い物、通いなれた病院、ボランティアの訪問、地域主催の敬老会参加等地域資源を活かした支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望を優先し、協力医療機関だけでなく今までかかっていた受診科にも継続して受診できる支援を行っている。理解が得られた時は協力医療機関で必要に応じ受診していただいている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週2回、協力医療機関の往診がある。医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問により利用者様の体調変化や状態を報告相談し、バイタル測定、必要な処置を行い、主治医に報告していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が継続して見舞うことにより、本人や家族様、医療機関の方と話す機会を持ち情報交換を行い、スムーズに治療やケアができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時に重度化した場合や終末期ケアについて苑の対応力について説明し、十分な理解、了承をいただいている。また、利用者様の状態の変化を家族様に報告し、その都度話し合いを持ち、医療機関と連携を図りながら支援している。	入居時の段階で、重度化した場合や終末期の対応について書面をもとに説明している。利用者一人ひとりの状態にあわせて支援することができるよう医療機関との連携体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態を常に把握しておき、起こりうる急変や事故の予測を申し送り時に話し合い、対応法をしっかりと話し合い学び訓練し、分からないことは主治医や看護師の方に教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時・事故マニュアルを作成して全職員が理解しており、年2回の非難訓練を行っている。災害時の緊急連絡網を作成し目に付く場所に掲示している。	年2回、避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網を作成し、近隣の職員が参集するための基準として事務所に掲示している。また、地域の消防団長が運営推進会議に参加してくれており、災害時のアドバイスを得るなどして地域とともに対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、自尊心を重んじる丁寧な言葉かけを行い、利用者様のプライバシーを守るよう全員で行っている。	利用者一人ひとりのプライバシーや誇りを損なうことのないよう声かけなどに留意している。また、職員は、職場外の研修会へ積極的に参加し、サービスの質の向上へ繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動に注意し、利用者様それぞれに合った声かけや傾聴を行うなかで思いや希望を聴き、出来る力を把握し、利用者様の能力に応じた自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでにしてきた生活パターンを把握し、利用者様の個性を尊重し、一人ひとりのペースに合わせ、その方らしく過ごせるようにしたい事、したくない事の思いに添って過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで愛用されていた物を持ってきていただき、利用者様の希望に沿うよう、その人らしい身だしなみが継続できるよう努めている。。入浴前に毛染め介助も行いおしゃれが継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食を取り入れ、誕生日にはその方の食べたい料理をメニューにしている。利用者様と共に会話しながら一緒に楽しく食事が摂れるよう心がけている。	事業所では、利用者全員で食前の口腔体操を行っている。利用者に嗜好調査を実施して食欲を高める献立を作成するなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。誕生日や季節に応じた行事食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の健康状態、その日の体調、季節等に配慮し食事量の少ない方には補食を準備し、野菜嫌いで食べない方には調理法を変え、水分は摂取する機会を多くして声かけで促すよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔の重要性を理解し、毎食後洗面所で自力で洗っていただくことを見守り、出来ない方はその状態に合わせた介助を取り入れている。夕食後に義歯を預かれる方には酵素液につけ管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	I ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の身体機能や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を重視し、自尊心に配慮した介助を行っている。パンツやパットの形態や使い方、ポータブルトイレの使用も随時検討している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、申し送り時に職員間で共有して自立に向けた支援に努めている。トイレ誘導の際は、さりげない声かけや対応を心がけている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を常に確認し、便秘傾向になっている方には様々な要因をチェックし、水分や繊維質の多い食品摂取を促し、散歩や体操などの運動に取り組んでいる。家族様の要望でヨーグルトを預かり食事時に添えて出している方もあります。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は一応定めていますが、利用者様のその時の気分や体調を尊重し、安全に安心して入ることができその方のペースで満足していただけよう努めている。また、菖蒲湯や柚子湯を取り入れ季節感を楽しんでもらえるようにしている。	利用者の体調や希望を十分に配慮したうえで、週3回の入浴を支援している。入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫し、くつろいで入浴してもらえるよう働きかけている。また、ゆず湯や菖蒲湯等を活用し、入浴が楽しいものとなるよう工夫している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様一人ひとりの睡眠や休息パターンを把握し、季節に合わせた室温調節を行い、使い慣れた寝具を使用してもらい、安心して心地よく眠れるようにしている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病気と薬についての知識を持ち、服用している。薬のファイルを作りいつでも確認できるようにしている。処方の変った時には、症状の変化に気を付け、服薬する薬は2度の確認を行い飲み間違いを防ぎ服薬を見届けている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意欲や残存能力に応じた役割を考慮し朝の散歩、台所のお手伝い、洗濯たたみ、拭き掃除など職員と一緒にしている。喫煙が安全にでき吸いすぎにも配慮している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を立て、四季折々の花見や遠足、外食を企画し外出の機会を設けている。朝の散歩は定着し、歩行困難な方も車椅子で出掛けている。また、職員と買い物外出や喫茶店でケーキを楽しむなど支援している。	年間の行事計画に基づき、季節の行事や外食、遠足等へ出かけるなどして、積極的に外出の機会を設けている。また、利用者の希望に応じて、港に海を見に行ったり、馴染みの喫茶店へ出かけたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や家族様の要望を聞き入れ、欲しいものがある時や買い物に出かけた時にお金を使う機会を設けその能力に応じて職員とともに支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方からの電話がかかってきた際には、受話器の所まで案内し、コミュニケーションを図っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく日差しが入り、トイレもゆったりしている。浴室も広々と入りやすく台所から直接ホールが見渡せる。壁面を利用して季節感のある展示物を掲示している。	事業所のホールや玄関、廊下には、貼り絵等の利用者の作品を掲示しており、家庭的で季節感のある空間となっている。事業所は、南向きの平屋造りで日当たりが良い。利用者は、ソファや椅子でくつろいでおり、穏やかな時間を過ごしている。トイレの清掃も行き届いており、清潔な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際には利用者の方々の性格も考慮し席の配置を考えており、席が決まっていることで安心感がある。また、テレビを見たり雑談を楽しむ時等は気の合った方々同士がソファや和室に座りくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方とも相談し、利用者様の使い慣れたものや思い出深いもの、絵画、写真、仏壇を持ち込んでいただき、利用者様が落ち着いた空間で過ごす事が出来るよう配慮している。	利用者は、使い慣れた家具等を居室に持ち込んでいる。利用者の安全面や使い勝手に配慮し家具等を配置しており、居心地良く過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの日常生活動作や理解力を把握し、必要な掲示や目印、補助具を用い失敗や不安を招くことがない環境に心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し運営理念を介護の現場で生かせるように話し合いを持ち実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩や町の催しに出掛ける等を通して顔見知りの関係ができ、入所者様が一人で外を歩いていると知らせてくださり、少しずつ交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険の利用等の質問を受けた時には、介護保険で利用できるサービス等を説明し、認知症やグループホームについてもお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者の方にも参加していただき、意見を出していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令や運営について分からないことがある時は、市の担当者にお聞きし、アドバイスや的確な返答をいただき、情報交換を行う機会を作り、協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会等で身体拘束について学び、全職員が理解を深め、どうすれば身体拘束せずに安全が確保できるかを話し合い、拘束ゼロに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事等についても話し合いの材料、問題提起と受け止めミーティング時の話題にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用できる制度や事業について学ぶ機会を持ち、家族や関係者の意向を聞き取りながら利用者の能力に応じ活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や利用契約書の内容、個人情報保護、身体拘束、看取り等の説明を十分に行っている。誤解の生じないように注意し、理解、納得していただいた上で署名、押印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加された家族様や家族会での話し合い、アンケート、来訪時に意見や要望を気軽に相談できるような機会と雰囲気作りに努め、いただいた意見や要望を運営につなげ質の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場におり現状を十分に把握し申し送り時や会議で職員から出る意見や提案を尊重し、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や研修を行っている。労働安全衛生法に則り、健康診断等で健康と安全に気を付け、職員それぞれの労働形態に配慮しモチベーションの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や能力、希望に応じ新たな資格習得や外部研修を受けるよう勧め、参加してもらい、研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と話し合う機会を持ち、お互いに分からないことは聞きやすい関係を作り、サービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に、家族の方、担当ケアマネから心身の状態や暮らしぶりについてよく聴き、ご本人様からも希望や要望をお聞きし不安や不満要素を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後の家族様との話し合いの中で、センター方式の聞き取りを行い、家族様が抱える悩みや葛藤を理解し、要望を把握したうえで信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	是までの介護の様子や相談に至った経緯を家族様や利用者様に聴き、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のこれまでの経験が活かされ、好きなこと得意なことを見つけ利用者様の意欲に応じ、一緒に行うことでお互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いを汲み取りながら、運営推進会議や行事に参加していただく機会を持ち、利用者様、職員と一緒に過ごす機会を作ることでコミュニケーションを図り、日々の生活状況をお便りで伝え、共に支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に連絡したい時は電話連絡で会話し、家族、親戚、友人、近所の方の面会を大切にし、家族との外出、病院受診、美容室でのカットと毛染めが継続して行えるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が各部屋を往来したり散歩やレク等も一緒に楽しまれている。利用者様の相性や性格等を考慮し、食事の席等を工夫し、利用者様同士の関係が円滑なものとなるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後もお見舞いや個別訪問するなどし、その後の生活を伺っている。また、いつでも相談できる体制があることを説明し、家族様からの問い合わせや相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに関わりを持ち言葉や表情から、どのような思いを持っているのかヒントとなるものを記録し、話し合い、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様がこれまで歩んできた生活をプライバシーに配慮しながら担当ケアマネージャーや各種サービス利用機関、家族様から情報を収集し、これまでの経過や馴染んできた暮らし方、生活環境、人生観、価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの行動や何気ない言動から利用者様に合った過ごし方の把握に努めている。本人の出来る事できない事を十分把握し、現在持っている能力が維持できるような視点で支援に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の言動の中から、また、家族様の来苑時に思いや要望を聴き、利用者がその人らしい生活を続けられるために職員でモニタリング、アセスメント、カンファレンスで現状を把握し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に時間的に利用者様の状態や介護実践を記入している。そして、変化や気づいたことを申し送り時に話し合い情報を共有し、対応を話し合いチームでの統一したケアを行えるようにして介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の病院受診や外出の送迎など個別にあったニーズを本人の希望や家族様の要望を聞き、家族様と連携をとりながら必要な支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食、花見、郵便局、美容院、近隣商店への買い物、通いなれた病院、ボランティアの訪問、地域主催の敬老会参加等地域資源を活かした支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望を優先し、協力医療機関だけでなく今までかかっていた受診科にも継続して受診できる支援を行っている。理解が得られた時は協力医療機関で必要に応じ受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問により利用者様の体調変化や状態を報告相談し、バイタル測定、必要な処置を行い、主治医に報告していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が継続して見舞うことにより、本人や家族様、医療機関の方と話す機会を持ち情報交換を行い、スムーズに治療やケアができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時に重度化した場合や終末期ケアについて苑の対応力について説明し、十分な理解、了承をいただいている。また、利用者様の変化する状態を家族様に報告し、その都度話し合いを持ち、医療機関と連携を図りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態を常に把握しておき、起こりうる急変や事故の予測を申し送り時に話し合い、対応法をしっかりと話し合い学び訓練し、分からないことは主治医や看護師の方に教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時・事故マニュアルを作成して全職員が理解しており、年3回の非難訓練を行っている。災害時の緊急連絡網を作成し目につく場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、自尊心を重んじる丁寧な言葉かけを行い、利用者様のプライバシーを守るよう全員で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動に注意し、利用者様それぞれに合った声かけや傾聴を行うなかで思いや希望を聴き、出来る力を把握し、利用者の能力に応じた自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでにしてきた生活パターンを把握し、利用者様の個性を尊重し、一人ひとりのペースに合わせ、その方らしく過ごせるようしたい事、したくない事の思いに添って過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の好みを大切にし、身だしなみを整えている。また、美容師さんの出張カットを依頼したり、髪油や化粧品等の補充管理を行いおしゃれが継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け、テーブル拭き、配膳下膳、食器拭き、片付け等職員と一緒にを行い、利用者様のもっている能力が生かせるように取り組み、張りのある生活になるよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の健康状態、その日の体調、季節等に配慮し食事量の少ない方には補食を準備し、野菜嫌いで食べない方には調理法を変え、水分は摂取する機会を多くして声かけで促すよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔の重要性を理解し、毎食後洗面所で自力で洗っていただくことを見守り、出来ない方はその状態に合わせた介助を取り入れている。夕食後に義歯を預かれる方には酵素液につけ管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の身体機能や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を重視し、自尊心に配慮した介助を行っている。パンツやパットの形態や使い方、ポータブルトイレの使用も随時検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を常に確認し、便秘傾向になっている方には様々な要因をチェックし、水分や繊維質の多い食品摂取を促し、散歩や体操などの運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は一応定めていますが、利用者様のその時の気分や体調を尊重し、安全に安心して入浴することができその方のペースで満足していたように努めている。また、菖蒲湯や柚子湯を取り入れ季節感を楽しんでもらえるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣やその日の体調にあわせて休息していただいておりますが、生活リズムを整え日中は出来るだけ活動的に過ごしていただくことで、夜間の気持ち良い睡眠に繋がる支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病気と薬についての知識を持ち、服用している。薬のファイルを作りいつでも確認できるようにしている。処方が変わった時には、症状の変化に気を付け、服薬する薬は2度の確認を行い飲み間違いを防ぎ服薬を見届けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式等を利用して好きな事や生活歴を把握し、絵の好きな方の趣味の継続やお腹が空く方の家族持ち込みのおやつや補充など、一人ひとりの要望を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事計画を立て、四季折々の花見や遠足、外食を企画し外出の機会を設けている。朝の散歩は定着し、歩行困難な方も車椅子で出掛けている。また、職員と買い物外出や美容室で髪を染めたり喫茶店でケーキを楽しむなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や家族様の要望を聞き入れ、欲しいものがある時や買い物に出かけた時にお金を使う機会を設けその能力に応じて職員とともに支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話をかけたいときには、電話を使用しお話しすることで安心していただいている。年賀状の返事を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく日差しが入り、トイレもゆったりしている。。浴室も広々と入りやすく台所から直接ホールが見渡せる。壁面を利用して季節感のある展示物を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーやテーブル、椅子、畳コーナーがあり、日中はお気に入りの場所で過ごしている。。食事の際は気のあった利用者様同士で食事が出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持ち込まれ、ご自宅で過ごされているような安心感のある居室作りをしている。レクで作った自作のカレンダー等も月替わりに掲示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの日常生活動作や理解力を把握し、必要な掲示や目印、補助具を用い失敗や不安を招くことがない環境に心がけている。		